

1 単元名 器械運動(跳び箱運動)

2 単元の目標

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けることができるようにする。

ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすることができるようにする。

(知識及び技能)

(2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)

(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

中学年の器械運動は、「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」で構成され、回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりすることなどの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びに触れることのできる運動である。

低学年の器械・器具を使つての運動遊びの学習を踏まえ、中学年では、器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動などの基本的な動きや技を身に付けるようにし、高学年の器械運動の学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにすることが大切である。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級(男子15名、女子19名、計34名)は、明るく元気な児童が多い。多数の児童が、昼休みに外でサッカーや鬼ごっこをして遊んでいるが、屋内で過ごしている児童もあり、運動への関心には個人差があるとともに、男女間の運動経験の差も大きい。体育の学習では、どの領域の運動でも積極的に運動に取り組み、楽しみながら学ぼうとする姿が見られる。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

これまでの学習を通して「知識及び運動」に関しては、「西小パワーアップ運動」をもとに、集団行動の行い方や、立腰指導などを通して、体育科学習を進めていく上でのきまりを意識して行動することができるようにしている。また、器械運動(マット運動)では、開脚前転や開脚後転などの基本的な技について確認したり、発展的な技に取り組んだりしてきた。

また「思考力、判断力、表現力等」に関しては、体づくり運動の学習を通して、動作や人数など

の条件を変えて、友達と関わり合いながら運動を行ってきた。どの領域でも、ペアやグループで活動を行う中で、話し合ったり、ワークシートを用いたりして友達同士で動きのコツやポイントを伝えあうことが大切であるという理解が高まってきている。

そして「学びに向かう力、人間性等」に関しては、どの分野においても、動きや気付いたことを伝えあう際に、友達の考えを認めたり、場の安全に気を付けたりして学習することについて学んできた。多くの児童が、きまりを守って友達と技を見せ合ったり、称賛しあったりすることができるようになってきた。また、活動の準備や片付けも授業の一部であるという考えをもつことができるようになってきている。

(3) 体力の状況

段階	A	B	C	D	E
男子人数(%)	3 (9%)	12 (36%)	12 (36%)	5 (15%)	1 (2%)
女子人数(%)	5 (12%)	5 (12%)	22 (56%)	4 (11%)	3 (9%)
合計人数(%)	8 (11%)	17 (23%)	34 (48%)	9 (13%)	4 (5%)

昨年度の当学年全体の体力テストの結果は、A段階が8名、B段階17名、C段階が34名、D段階が9名、E段階4名であり、C段階の児童が学年全体の約半数であるということが分かる。昨年度の体力テストにおいては、男女ともに握力及び反復横跳び、ソフトボール投げに課題があることが分かった。

また、器械運動（マット運動、鉄棒運動）の学習を通して、回転や倒立などの感覚は身に付いてきているように感じるが、発展的な技の修得は十分にできていない児童もいる。

5 学習を進めるに当たって

本単元の指導に当たっては、当学年の実態に応じて、基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組ませたりする指導を重点的に行う。その際、児童が自らの課題を把握し、課題を解決するための練習方法や場を選び、解決に向けて学習を進めることで、上達した喜びを多く感じられることを目指していくようにする。

オリエンテーションでは、本単元でどのような運動に取り組んでいくのかを確認することで、ゴールイメージをもたせたい。また、1単位時間の流れや学習カードの使い方を児童につかませたい。

「ねらい1」では、学習課題を「自分に合った練習方法や場を選び、運動のポイントを理解して基本的な技ができるようになる。」とし、自分の課題を解決するための練習方法や場を選び、基本的な技を安定してできるようになることを目指していく。

「ねらい2」では、学習課題を「できるようになった技を高めよう。」とし、跳び箱の高さを変えたり、発展的な技の練習を行い、空中姿勢や着地姿勢などの技の美しさを高めたりすることを目指す。その際、自分が高めたい技に応じた場や高さを選んで学習に取り組むようにさせる。

そこで本時の授業においては、「はじめ」の段階では、本時のめあての確認を行い、本時の学習内容についての共通理解を図った後に、グループで準備運動を行う。

「なか」の段階は、前半と後半に分けて指導する。前半では、台上前転につながる補助的な運動を全体指導で行っていく。児童の跳び箱から落ちるといふ恐怖心無くすために、スモールステップで重ねたマットを用いて前転を行い、高さを段階的に上げていくようにする。児童間の声のかけ合いの中で、回り方や手の付き方についてアドバイスし合えるようにする。後半では、児童が自己の

能力に適した場を選んで台上前転に取り組んでいくようにする。練習の場は、①「跳び箱と同じ高さにマットを重ねた場」、②「跳び箱の上にマットを敷いた場」、③「段差を少なくした場」、④「1段のみの跳び箱の場」とし、自己の能力や恐怖心に応じた場所で練習させる。また、自信がいたら場を変更させたり設定している場を変更させたりする。

「まとめ」の段階では、ワークシートを用いて、学習の振り返りを行う。自分の選んだ場やつかんだコツ、友達からの意見を書くことにより、上達を確認できるようにしたい。また、次に頑張りたいことも記述させることで、新たな課題をもたせていきたい。全体での振り返りの際には、台上前転ができるようになった児童だけではなく、自分に合った場で練習を行っていた児童も称賛し、次時につなげていきたい。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	<p>次の運動の行い方を知っているとともに、その技を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をしている。 <p>ア、イに関する内容は省略</p>	<p>自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、きまりを守って誰とでも仲良く運動しようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。</p>
単元ごとの評価規準	<p>①跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、飛び越えて着地することができる。</p> <p>③助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。</p>	<p>①うまくできたところやできなかったところを、学習カードや掲示物などの連続図に目印や色を付けたり、シールを貼ったりして、自己の能力に適した課題を見付けている。</p> <p>②手の付く位置や着地する位置、目線が向く場所などに目印を置くなどして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。</p> <p>③友達の手の付く位置や着地する位置、目線が向く場所に目印を置いて、動きのできばえを友達に伝えたり書いたりしている。</p>	<p>①回転したり、支持したりするなどの跳び箱運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②場の正しい使い方や、試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p> <p>③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。</p> <p>④動きや気付いたことを伝えあう際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>⑤場の安全に気を付けている。</p>

8 本時の学習(4/7時間)

(1) 本時の目標

- 手の付く位置や着地する位置、目線が向く場所などに目印を置くなどして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選ぶことができるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の評価項目

- 手の付く位置や着地する位置、目線が向く場所などに目印を置くなどして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。
(思考・判断・表現)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」と判断される児童への手立て
はじめ (10分)	1 既習事項を振り返りグループで準備運動を行う。 2 めあてと学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 主運動につながる準備運動や、感覚づくりの補助運動の時間を設定する。 めあてを確認し、学習の流れの見通しをもてるようにする。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 台上前転がうまくなるためには、どんな場で練習したらよいだろう。 </div>				
なか (25分)	3 台上前転につながる補助運動を行う。 ・重ねたマットで前転 4 自分の能力に適した場を選んで台上前転の練習をする。 ① 跳び箱と同じ高さにもマットを重ねた場 ② 跳び箱の上にマットを引いた場 ③ 段差を少なくした場 ④ 1段の跳び箱の場	<ul style="list-style-type: none"> 児童の跳び箱から落ちてしまうという恐怖心を無くすために、重ねたマットで練習する時間を設定する。 踏切と着手に重点を置いて指導する。 マットを横向きにした長さが跳び箱の縦の長さと同じであることを伝え、その幅で回れるように指導する。 マットを跳び箱の1段と同じ高さになるまで段階的に重ね、前転ができるように指導する。 台上前転ができるようにするために、自分ができそうな場を選んで練習する。 今の場で自信が付いたら場を変更して練習してもよいことを伝える。 児童の上達に合わせて、場の設定を変更したり、声かけをしたりして適宜指導を行う。 	○ 手の付く位置や着地する位置、目線が向く場所などに目印を置くなどして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 (観察・ワークシート) 【Aの例】 自己の能力に適した課題に対し解決しやすい練習の場を試行錯誤しながら選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 手の付く位置や目線など目標とする場所に目印を置くようにする。
まとめ (10分)	5 片付けを行う。 6 学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 安全に片付けができるように声かけを行う。 ワークシートをもとに、個人で振り返り、全体で発表できるようにする。 		